

えんど久子県議ら日本共産党

大分県議22人の海外視察に反対

3400万円で欧州へ

今年4月から7月に、フランス・スイス・ドイツに大分県議22名が3グループに分かれて海外視察に行きました。今年3月の県議会では3400万円の予算が提案された際に反対したのは日本共産党の2人だけでした。県民の暮らしが大変な中、税金を使って議員が海外視察に行くべきではないと意見を述べて反対。

8年ぶりの海外視察で、参加人数は、自民14、県民クラブ5、維新1、志士の会1、無所属1です。

報告会の傍聴を認めよ

日本共産党県議団は、海外視察の報告会は県民の傍聴を認めるよう議長あてに要請しましたが、嶋議長は、9月18日の報告会は県議と報道機関のみの参加とし、「県議会ホームページをご覧ください」と言います。

報告会で日本共産党の堤栄三県議は「外国に行かないとわからないことなのか。県政に反映させる方策が書かれていないものもある」と指摘。えんど久子県議は、県政に活かす立場から内容について質問しました。



子どもの国保税ゼロに

「赤ちゃんが生まれたらすぐに国民健康保険税が課税され、子どもが多い世帯ほど負担が増えてしまふ。少子化対策に逆行するものだ。県が支援して自己負担ゼロにすべきだ」と、えんど久子県議。



これまで就学前を対象としていた国保税の5割軽減を、来年4月から高校生年代まで広げることが国が決めました。国民の声に押されて、一歩前進です。県は「国への要望を続ける」という答弁です。子どもの国保税ゼロをめざし、今後とも力をあわせましょう。



一般質問するえんど久子県議 26. 9. 11.

日本共産党 県政ニュース

発行 日本共産党大分県議団
大分県議会議員 えんど久子

TEL・Fax 097-537-2344

No. 91

2026.9.30.

えんど久子のホームページはっぴーえんど・どっとねっとをぜひご覧ください

えんど久子県議らが実現求めるものの請願は不採択



高齢者の補聴器購入に補助を

9月の県議会に高齢者の補聴器購入への大分県独自の補助を求める請願が提出されました。

えんど久子県議は、11日の一般質問や16日の常任委員会、さらに24日の討論で補助の実現を請願の採択を求めました。

全国723市町村で実現

加齢性難聴に対する補聴器購入の助成を行う自治体は723市町村に広がり、県内では豊後高田市に続き、国東市では今年度から上限5万円を助成する事業を250万円の予算でスタートしたことや、東京都・山梨県・香川県・神奈川県が実施していることを紹介し、えんど久子県議は、大分県としての補助を求めました。

高齢者の7割ほどが難聴

県は「加齢性難聴者は70代後半で男性の71%、女性の67%、80歳以上では男性の84%、女性の73%が該当する。広く補聴器の購入費用を助成することについては慎重な検討が必要」と答弁。国の交付金（保険者努力支援交付金）について、介護予防事業の一環として、診断や啓発など難聴を予防する観点を含めた取り組みに交付されている市町村の事例があるものの「補聴器購入助成の事業単独で充当することは難しい。都道府県が実施主体となることは想定されていない」と答弁。「対象が多いからこそ前向きに考えてほしい」と、えんど県議。



両耳で20万円～60万円

さらに、えんど久子県議は、福祉保健委員会で、両耳で20数万円から60数万円かかることや、働く人の内65歳以上は13.6%を占めることなどを訴え、必要性を主張しました。

しかし、自民党などは「国の補助を求める意見書ならばよいが、県単独では難しい」などと反対。24日の本会議で自民党・公明党などの反対で請願は不採択となりました。

今後とも力をあわせ実現をめざしましょう。

「民間マッチングアプリで応募しスキマバイトを含め、介護人材の確保をすすめるというモデル事業は慎重に」とえんど久子県議。 26.9.14.